

# 前途 ようよう

- z e n t o y o y o -

2018.2  
VOL.4

高齢者介護業界のあの人この人に、これからの高齢者介護についての予測や展望をお聞きするインタビューコーナーです。

## vol.4 社会福祉法人晋栄福祉会 中山ちどり 総合施設長 内池正記 様



【中山ちどり／兵庫県宝塚市】



【内池様】

### 1. 貴施設の特徴について教えてください。

当施設は、平成 23 年 5 月 1 日に開設しました。宝塚の街並みを望む中山台に位置し、付近には安産の寺として有名な中山寺があります。様々な施設を含む総合福祉施設であり、特別養護老人ホーム、ケアハウス、ショートステイ、デイサービス、グループホーム、小規模多機能ホーム、認知症対応型デイサービス、夜間対応型訪問介護、訪問看護、居宅介護支援が複合しており、総合的な介護サービスの提供を行っています。

「今までのように、自分らしく暮らしたい」という気持ちを大切に、安心して暮らしていただきたいと願っています。中山ちどりは、ケアスタッフだけでなく、ご家族、そして地域の方とも一緒にこれまでのつながりを持ち続けながら、自分らしく暮らしていただける環境づくりを目指しています。また、訪問看護ステーション開設後は、施設ではなく「自分でできる限り最後まで自宅で暮らしたい」という高齢者の思いにも少しずつ寄り添うことができるようになりました。

当法人の今後の施設展開としては、今年 3 月に大阪府門真市に特養 80 床・ショートステイ 20 床、冬頃には奈良県生駒市に特養 50 床・ショートステイ 10 床、2019 年春には兵庫県神戸市垂水区に特養 100 床・ショートステイ 20 床・特定ケアハウス 60 床の開設を予定しています。

### 2. 内池様のご経歴を教えてください。

大学では法律を専攻しておりましたが、法曹界への就職は考えていませんでした。

また、当時の私は営業ノルマや他人との競争がある職種も向いていないと思っていましたので、物を売買する職業ではなくサービスの価値を創造できると考えて介護業界に就職しました。

就職先は現在とは別の法人で、特養・ケアハウス・ショートステイ・在宅介護支援センターのスタッフ業務を行い、32歳の時に事務長を任されました。約 10 年の在籍期間で労務・総務・法人運営など様々なポストを経験させていただいたことが、今の私の価値判断基準に大きく影響しています。

その後、現所属法人（社会福祉法人晋栄福祉会）の理事長とご縁があり、平成 21 年 10 月に入職しました。平成 22 年 4 月に中山ちどり開設準備室課長に任命され、平成 23 年 5 月の中山ちどり開設時に部長に、平成 24 年 7 月に副施設長、平成 25 年 7 月施設長を歴任し現在に至ります。

### 3. 高齢者ケアについて

最近、介護業界が変わったと思うことや貴施設での近年のお取り組みの特徴について教えてください。

最近変わったと思うことは、私が現場にいた頃より入居者の体格が大きくなっていることです。先輩高齢者との食文化の違いなのでしょうか？全体の QOL が上がっているようにも感じています。

そんな事からもノーリフティングの取り組みも重要になってきていると思っています。リフトを積極導入していない日本の介護は世界的に見ても低い水準にあると言われています。当施設は、ノーリフティングポリシーに基づき、リフトで吊り上げるだけでなくスライディングボードやスライディングシートを利用し、職員の腰痛予防や入居者の怪我防止に繋がっています。リフトを使わずに歯を食いしばって一生懸命ケアをするより、リフトなどを上手に活用し、笑顔で入居者に接する方がお互いに良いはずです。



【移乗用リフト（イメージ）】



【スライディングシート（イメージ）】

また、平成 21 年より経済連携協定に基づくインドネシア人・フィリピン人・ベトナム人介護福祉士候補者の受入れを行っています。現在では、法人全体で介護福祉士の有資格者 15 名程度と、資格取得を目指す候補者 35 名程度が実際に介護業務に従事しています。当法人理事長の方針により、あらゆる障がい・偏見を排除し、いち早く外国人スタッフを受け入れたことによって人員不足に対し少しでも有利に運ぶことができ、現行サービスの維持・向上ができる体質が早くから法人内に根付いていると思っています。少しでもこの受け入れや取り組みが遅れていたら今の当施設のサービスはどうなっていたか分からない程です。今後も良いと思ったことは他施設がどうであれ、先んじて取り組むつもりです。「介護に関連することは、できない理由ではなく、できる理由を探そう。」と私自身が常に考えていることをスタッフと共有しながら、ともに歩んでいきたいと思っています。

### 4. 福祉機器とのかかわりについて

福祉用具があって助かった事（活用メリットなど）を教えてください。

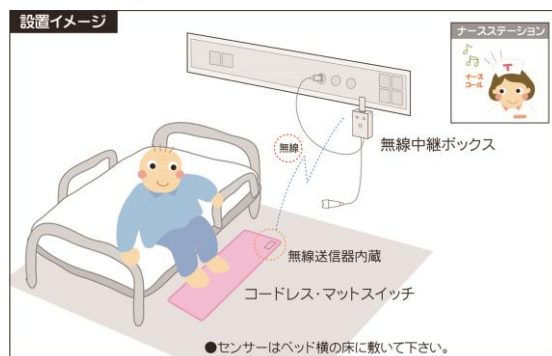
テクノスジャパンの福祉用具に限って言うと、施設開設時に 60 台の離床センサーを一括導入し、その後も数回追加導入を行い、現在でも常時 60 台以上が稼働しています。作業療法士をリーダーとした現場スタッフが基本的な使用方法を踏まえて、様々な工夫をしながら入居者に合った運用をしています。

<中山ちどり様での離床センサー活用事例は、『テクノス通信 Nursing Vol.54 現場レポート』で詳しくご紹介しています。ぜひご覧ください！！>

当時はかなり思い切った投資だったかもしれませんが、極端な話、もし離床センサーを導入していなければ、入居者の命が危険に晒されたり、事故の場面に立ち会ったスタッフが「やるせなさ、不甲斐なさ」を感じて辞めてしまうこともあったかもしれません。

当施設にとって、離床センサーはそれほど重要な安全・安心を担保してくれる機器です。施設開設 7 年を無事に迎えることが出来た理由のひとつとも言えます！

しかし福祉用具はあくまでもスタッフにとっての「お守り」であって、用具に頼りきってしまうことはあってはならないと思っています。福祉用具を活用しながらも入居者の行動を事前に想定できる「プロ」であってほしいと願っています。



## 5. これからの高齢者ケアについての展望や期待、夢を教えてください。

私がこれまでスタッフに繰り返し言ってきたことは、「入居者の行動予測に基づいたケア」です。

例えば、ナースコールにしても入居者がコールを押す前のタイミングでスタッフが行動を予測してケアを行おうということです。入居者に気持ちよく過ごして頂くことに直結するだけでなく、マンパワーが不足している現場でも計画的な動きができて、生産性が向上し、スタッフの負担軽減にも繋がるからです。

「入居者が清々しい笑顔で生活される中で、スタッフも笑顔でイキイキと働き、ご家族が安心できる」トリプル・ウインの施設でありたいと思っています。 今後も高い水準を保つ努力と挑戦を継続していきたいと思っております！！

テクノス通信 Home (2018 年 2 月発行) より